

## 解答

- 問一 今まで大事に使ってきた茶道具のうち、いくつかを売ってお金にした。
- 問二 自分の家が狭いので、百姓の家に預けておこうと思っていたから。
- 問三 梅の実をとると思って高い値段で梅の木を売ったのに、玄知は実をとらずに花見をしているだけなので、自分がお金を受け取るべきではないと思ったから。
- 問四 百姓のものではなく自分のものになった梅の花を見て楽しむことに喜びを感じているので、百姓に支払ったお金はその喜びに見合ったものだと考えているから。

- 問一 ① 供 ② 唱 ③ 栄
- 問二 ① イ ② オ ③ ク ④ キ
- 問三 ① とても ② ばかり ③ まるで ④ もの
- 問四 ① ア重 イ切 ウ延 ② イ・ウ

- ③ 行の先頭になる
- ④ 別の単語に属している

- 問一 ① ① エ
- 問二 a 顔 b 胸
- 問三 c 慣習 d 学習 e 強制
- 問四 f 伝承
- 問五 g 独自の言語文化があらわれており、同じようなことからでも、別の言語文化圏では表現が大きく異なる
- 問六 h 同じようなことからあらわす表現が、複数の異なる言語文化圏で、ある程度共通している
- イ・カ

- 問一 ア
- 問二 青森からは遠い北陸の旅館に、親子でわざわざやってきた目的は何なのかということ。
- 問三 ③ 息子が娯婆で食べられる最後の夕食にもかかわらず、とんかつのようなものでいいのかという驚きが強調されている。

- ⑦ 修行中で肉を食べるのがタブーであったとしても、久々に母親と食べられる食事には好物のとんかつを食べてほしいという女将の気遣いが強調されている。
- 問四 これから厳しい修行を受けることになる息子と、かわいい息子を修行へ送り出す母親の気持ちの違いを、長い別れの前に親子二人でとる夕食は、おいしく思い出深いものになってほしいという願いが込められている。
- 問五 母親が息子に、自分に出されたとんかつまで食べさせている様子。

- 問六 ア
- 問七 とんかつを食べたいものの修行中なので口には出せない事情をくみ取り、久しぶりに母と共に過ごせる食事に好物を用意してくれた、女将への感謝の気持ち。

- 問八 エ・カ